

会長：長友芳郎 幹事：川上 勉
事務所：〒301-0824 茨城県龍ヶ崎市下町 2842

連絡先：TEL 0297-64-3956 FAX 0297-64-3978 <http://rcrc.web5.jp>
例会場：〒301-0857 茨城県龍ヶ崎市泉町 1592-77 ザ・ゴルフクラブ龍ヶ崎

本日のプログラム

【通常例会 05.12】
クラブ協議会①
(会長方針・事業計画)
クラブ管理運営委員会



次回のプログラム

【通常例会 05.19】
2022年手続要覧
(クラブ定款・クラブ細則)
クラブ管理運営委員会

第 1166 例会報告 (2023.04.21)

点 鐘	会長 長友芳郎
国歌斉唱・Rソング	それでこそロータリー
本日のプログラム	女化物語 海老原賢会員
ゲスト・ビジター	楊玉瑩さん(米山奨学生)
水と衛生月間	

米山奨学生紹介



奨学生：楊玉瑩(ヤン ユーイン)さん
出身国・地域：中国
期間：2023.04.01-2024.03.31
学校名：アール医療福祉専門学校 二年生

以上、一年間よろしくお願いたします。

会長報告

長友芳郎 会長



◇本日は当クラブがお世話することになりました米山奨学生のヤンさんがいらっしゃいました。1年間宜しくお願いたします。世話クラブになるのはかなり久しぶりです。

ヤンさんは広東省出身だそうですが、私は 1990 年代に中国の改革開放路線が加速し市場経済が発展してきたころですが上海に幾度か足を運んだことがあります。

当時外資との合併が盛んであったのでその話に乗ってしまったわけですが、結果は失敗に終わりました。中国を訪れたのはその時が初めてだったので人の多さに驚きました。また、建物や道路やすべてが壮大に感じますが大陸は日本と違ってでかいんだなあと感じた次第です。小さなことにはあまりこだわらないような感じがします。中国はいまや電気自動車でも日本にも安価に売り込んできています。日本のメーカーも価格面での対応を迫られますね。本日は海老原さんの地元の卓話です。宜しくお願いたします。

幹事報告

川上 勉 幹事

◇RI 日本事務局より青少年奉仕月間に纏わる「リソース」が送信されてきました。
◇2022-23 地区補助金報告書並びに 2023-24 地区補助金申請書の提出要請が届いています。
◇2023.06.17 第 2820 地区第二回会長幹事会が「ホテル日航つくば「昴」にて開催されます。
◇2023.06.04.RLI 研修会が智学館(水戸市)で開催されます。会長エレクトが対象者です。

出席状況

会 員	8 名	出席率	100.00%
出席者	8 名		
出席免除	0 名	Make-up	0名
定款第10条(第6-7節除く)			

ニコニコボックス

目標額	(本年度)	400,000 円
実績額	本日/累計	13,000円 / 374,000円

MESSAGE

長友会員	ヤンさんようこそ
川上会員	ヤンさん一年宜しく!
荒木会員	楊さんようこそ 楽しく例会を過ごして下さい。
石崎会員	スタートは挨拶です
伊藤会員	ヤンさんようこそ!
海老原会員	4月21日は何の日 民放の日 1951/4/21 16社に民放初の予備免許が交付された日
松山会員	ヤンちゃんいらっしやい 楽しみましょう
横山会員	楊さん よろしくお願いたします。

今後のスケジュール

05/05. 金	こどもの日(定款第8条第1節d(1))
05/18. 木	第7分区親睦ゴルフ大会(水海道GC)
05/29. 日	国際大会(オーストラリア・メルボルン)
06/04. 日	RLI(ロータリー・リーダーシップ研究会)智学館
06/17. 土	第2回会長幹事会(ホテル日航つくば 昴)
06/18. 日	基盤向上セミナー(基調講演・橋岡久太郎氏)

《例会の欠席は、水曜日 AM 10:00 までに川上幹事 TEL 090-3497-0383 に連絡して下さい。》

本日のプログラム

女化物語



海老原賢 会員

女化町は、牛久市南部に位置する。北で結束町、北東で上太田町、東で龍ヶ崎市貝原塚町、南で柏田町の飛地、西で龍ヶ崎

市若柴町、北西でさくら台と隣接する。南に隣接して竜ヶ崎ニュータウンが出来るなど、周辺は宅地化が進んでいる。標高 25m 前後の稲敷台地上にあり、かつて女化原という広大な原野だった[3]。明治初期に津田出(つだいずる)が開拓し、この開拓によって、燕麦、小麦、落花生などが栽培されるようになり、女化原の多くが農地とされ維持されていった。現在も、落花生は女化町の主要農産物のひとつになっている。そのほかに大根を年間に 2 回同じ場所で生産していて、ここのところ数年間連作をしています。作物の連作障害はないようです。連作障害とは、その文字の通り作物を連続して栽培することで発生します。同じ作物(または同じ科の作物)を同じ圃場(ほじょう)で作っていると起こりやすい生育障害のことです。もともと土壌には様々な種類の微生物が存在しています。この中には「作物にとって有益な微生物」「有害な微生物」「それ以外の微生物」が存在しバランスを取っていると考えられています。土壌の微生物のバランスが崩れ、土壌に生息する有害な微生物(作物にとっての病原体)の密度が高くなりすぎてしまうこと(有害微生物の寡占化かせんか)により、根や地下茎などから作物に侵入し病害を引き起こします。病害におかされると様々な障害が発生します。例えばトマトでは「尻腐れ病」「青枯れ病」、ハクサイでは「根こぶ病」が発症しやすくなります。病気にかかり実が着かなければ出荷できなくなり収入が落ちる可能性があります。ダイコンはアブラナ科の植物です。ダイコンはどちらかというと連作障害を起こしにくい野菜です。ダイコンは 2~3 年は同じ場所で育てても大丈夫です。それ以降は栽培する場所を変えるか、数年はアブラナ科以外の植物を育てる必要があります。ダイコンを連作すると甘みが増すという説がありますが、現在、連作の「障害」と「甘み」と、どちらが勝るかがわからない状況です。

歴史

元は荒涼(こうりょう)とした草原地帯だった。1878 年(明治 11 年)に和歌山県出身の士族である津田出(つだいずる)により、大規模農場経営の第七農場として開発が始まった。津田は入植者を募り、この地で大規模な洋式大農法経営を始めた。後に経営は破綻し、土地は日本全国からの入植者に払い下げられた。『津田出(つだいずる)、

1832~1905』という徳川御三家・紀州藩を出身とする武士であります。筆者が津田出を知る以前の幕末期の紀州藩についてのイメージは、海援隊の坂本龍馬との間で起きた海上トラブル、「いろは丸沈没事件」(1867 年 5 月)の海難裁判において敗訴し、海援隊に賠償金を支払う破目になってしまふ些か損な役回り、というものでしたが、そんな藩内にも、前掲の横井小楠や勝海舟のような先進的な構想力と並外れた行動力を持った津田出という逸材がいたのであります。『津田出、通称:又太郎、号:芝山』、西郷隆盛や坂本龍馬らと違って世間一般にはあまり知られていませんが、間違いなく西郷たちに匹敵する偉人でありませぬ。白状しますとついこの間まで、筆者も恥ずかしながらこの紀州藩出身の偉人を全く知りませんでした。最初に津田出の存在を知ったのは、司馬遼太郎先生(しばりょうたろう)の名著『「明治」という国家(新装版)』(NHK ブックス)を読んだからであります。

津田出が療養生活に入った翌年の 1858 年、中央政府たる江戸幕府では、13 代将軍・徳川家定が、後嗣を決めずに死去。大老・井伊直弼が、紀州藩主であった徳川慶福を 14 代将軍として推戴。慶福が徳川家茂になるのは周知の通りであります。空位となった紀州藩主は、紀州藩の連枝である伊予西条藩出身の松平頼久が幕命により就任。これが『徳川茂承(もちつぐ)1844~1906)』であります。中級藩士を出自とする津田出を大抜擢して、藩政改革を敢行。そして成功させた紀州藩最後の明主であります。

新紀州藩主・徳川茂承は、病気により隠退していた津田出を、御小姓兼奥祐筆組頭に任命。彼を自身の近臣または学友として侍らせました。司馬遼太郎先生の言を拝借して譬えさせて頂くと、津田出は紀州藩の『公文書を書く役目の長/文書課長』(『「明治」という国家』文中)として、藩の諸政務に携わるようになったのです。

1864 年、幕府主導による第 1 次長州征討が起きていますが、この時も津田出は発病し、一旦は公職から身を退いています。翌年の第 2 次長州征討(1865 年)が勃発すると、藩主・徳川茂承は、幕軍先鋒総督に任命され戦前へ赴くこととなります。茂承は、紀州藩の軍事面を紀州藩家老の安藤直裕を、先鋒総督として登用する一方、内政面には津田出を御用取次並として起用して、紀州藩内の執政を一任しました。そして、津田出は、先進的な藩政改革(軍政改革)を画策するようになります。余談ですが、第 2 次長州征討の折、紀州軍に従軍している侍の中に、下級武士の酒井伴四郎(1834~没年不祥、禄高 30 石 衣紋役方)という人物がいますが、彼が江戸勤番時に書いた「酒井伴四郎日記」は江戸幕末期の食生活や下級武士の生活風俗などを知る上で、貴重な史料となっていますが、この日記を基にして書かれた人気漫画が、土山しげる先生原作の『勤番グルメ プシメシ!』であり、2017 年には、NHK で瀬戸康史さん主演でテレビドラマ化されました。

次頁へ続く

酒井伴四郎以外にも、日本人で最初のノーベル賞(物理学)を受賞された偉大な湯川秀樹博士、東洋史学/中国文学の第一人者であられた貝塚茂樹・小川珠樹の両大先生の祖父にあたる「小川駒橋(明治期には実業家)」も長州征討軍に従軍しており、有名な石州口の戦い(この方面の長州軍の総大将は大村益次郎)で紀州軍が敗走した折、駒橋は槍を振るって殿を務めたと言われています。津田出こそは、紀州藩における蕭何(中国の楚漢戦争期の漢軍の宰相/内政総責任者)的立場であったので、長州征討には参戦していませんが、紀州藩の出征軍側には、偉大な方々のご先祖様がいたことは、何とも感慨深いものを感じます。第2次長州征討は、長州軍の大村益次郎や高杉晋作といった天才的指揮官、最新鋭兵器と優れた戦術(散兵攻撃)を駆使した有名な奇兵隊など民兵隊の活躍があつて、大軍(一説には10万以上の軍勢)を擁している幕府征討軍は、僅か5千ほどの兵力しか持たない長州を降すことも能わず、更に1866年7月、征討軍総大将として大坂城に在陣していた14代将軍・徳川家茂が21歳の若さで病没。征討軍は撤兵を余儀なくされ、結果的に長州藩の勝利(国土防衛成功)になりました。即ち、それまで戦闘のプロであつた武士団、その総長である幕府軍が、一藩が主力とする民兵集団に敗北してしまったのであります。これにより、江戸幕府の権威は一挙に衰退していきました。

幕軍に属し敗残の将の一員となつてしまった紀州藩主・徳川茂承は、最早、藩内で長年、太平楽をかこつていた門閥武士団の軍制、つまり封建体制では、江戸幕末期の動乱を生きてゆけないことを痛感し、長州征伐時(1866年5月)に、執政・津田出から提出されていた紀州藩を大刷新させる『藩政改革案』を採用することを決めました。

地名の由来

女化の地名は、キツネが女に化けたという民間伝承の「狐の嫁入り」から付けられたとの説がある。『利根川図志』の巻五・栗林義長傳などにも「おなばけ」の記述がある。創建は16世紀初頭とみられる女化神社(祭神は保食命)は女化町に囲まれた龍ヶ崎市の飛地で、龍ヶ崎市馴馬町女化になっている。

女化町の世帯数と人口

2017年8月1日	世帯数	351世帯	人口	867人
2023年4月1日	世帯数	346世帯	人口	776人